

中一 国語科通信

第4号
平成29年9月13日
国語科1年担当
日高・平川・篠田



来んとする秋をせき止めるかのごとく
海辺にはためく「氷」の幟

新企画(?)、始めました。



「論理の虎」も第十回を迎え、「論理的に読む」とはどういうことか、少しづつ理解を深めてくれているようです。

そこで二期から新企画「百字の獅子」が始まりました。今度は「読解」ではなく、「表現」です。

決められたお題に沿って、百字で自由に文章を作ります。第一回の九月四日は、「文化祭」「敬老の日」「黄」の三つのお題でしたね。

皆さんのあまりの熱心さに、教科担一同、本当に驚きました。上手・下手は置いといて、書くということに対する皆さんのその意気込みは立派なものです。今後、不定期に実施しますので、その時はまた一生懸命取り組みましょう。

今回は、その「百字の獅子」からいくつかご紹介します。



何かもの言いたげな獅子だと思いませんか？

〈敬老の日〉

「感謝」

一組 Oさん

私の家には、祖父と祖母もいっしょに住んでいる。祖父は庭の掃除、祖母は料理や洗濯など、母が仕事に行っている時にしてくれている。このようなことが当たり前だと思わず感謝の気持ちをきちんと伝えるようにしたい。

◇「思い」は、思っているだけでは伝わらないもの。特に、感謝の気持ちはきちんと届けたいですね。

「敬老の日の逆は？」三組 Tさん

私は敬老の日と聞いて若者の日はなぜないのか、と疑問を持った。そもそも敬老の日とは老人を敬うということが漢字から読み取ることができる。それでは敬老の日という若者を敬う日もあるのではないのでしょうか。

◇視点が面白い。……ちなみに若者を敬うポイントは何でしょうか。しかしそう考えると、敬男の日、とか、敬妻の日、とか、際限なく増えそうですね。

〈黄〉

「黄色にスポットライトを浴びさせて」

二組 T君

ノートをまとめる時など大事な部分は黄色のマーカーを使う。しかし、信号機の黄はあまり重要ではない。赤の代わりに黄にしてもよいのかもしれないが、私はそんな日常の生活の中で地味に活躍してくれる黄色が好きだ。

◇T君の「黄」の定義がはっきりとしています。逆接を上手に使って、黄色への思いを論理的に主張できました。

「大好きな黄色のねずみ」三組 C君

私は、幼い頃黄色が好きで、積み木は黄色だけを選別して使っていたり、絵を描く時は顔も髪も服も全て黄色のクレヨンで塗ったり、黄色の服ばかり着ていたりしていたらしい。そのせいか、今もピカチュウが大好きだ。

◇黄色の持つ明るいイメージと、その話を楽しくそうに話す家族の姿が目につくたび、つい笑顔になる文章ですね。

〈文化祭〉

「成長できた文化祭」一組 Hさん

九月一日に行われた文化祭で私は、高校の書道部と合同でパフォーマンスを披露した。初めての経験でとても緊張したが、周りからの応援もあり本番は大成功した。パフォーマンスを通じて私は一歩成長することができた。

◇三文でまとめる、マス目いっぱいばの丁寧な字で書く、という条件をきちんと満たした良い「百字」でした。緊張からの満足、という心情の変化がよくわかります。

「音の色」二組 Tさん

私を取り巻く笑顔が、この先もずっとずっと続いてほしいと思った。かすかに香る甘い匂いと、校舎の影まで響く歌声がある。口寂しい夜空につぶやく声さえも、この熱気に押し潰されてしまうぐらい、賑わっていた。

◇具体物を描くのではなく五感をくすぐる表現によって、文化祭の日の校内の空気感を描き出すことに成功していますね。タイトルも魅力的。

漢和辞典早引き大会

九月六日、一組三組合同漢和辞典早引き大会を実施しました(二組さんごめん！いつか必ず！)

高校生になっても引くのをためらう生徒が多い漢和辞典。目当ての字にたどり着くまで時間がかかるのがその理由でしょう。今から鍛えればきっと、漢和辞典と友達になれる！



コラムマラソン 第四回

「説得力のある言葉」

狭間千穂

宮崎市民文化ホールであった、「佐藤ママ講演会」を聞きに行った。四人の子供全員を、東大理IIIに合格させたお母さんだ。その徹底したやり方に世間では賛否両論あるようだが、結果を出した人の言葉には説得力がある。何かヒントになることはないかと耳と傾ければ、納得することも多々あった。「やる気が出ないのは、目の前の問題が難しすぎるから。二年ぐらい前(皆さんなら小五)の問題に取り組んでみよう。思わぬ取りこぼしが見つかったりして、やる気が出る」「寝ないで頑張れ、ではなく、起きる間の一分一秒を大切に」「カレンダーは二ヶ月分を並べて、常に一ヶ月先を見よ」「新大学入試に対してオロオロしなくてよい。八十字程度の記述問題など、基礎力があればOK。大事な漢字、計算」

——参考になることはありませんか？